段階別

不登校対応ハンドブック

徳島県教育委員会

目　　次

1　不登校の子どもと出会ったら ---------- 1
(1) 「かかわりつつ待つ」姿勢で
(2) ケースに応じた支援をしよう
(3) 学級担任としてのかかわり方
(4) 情報収集の視点

2　不登校の各段階とその対応 ---------- 3
(1) 不登校の段階チェックリスト
(2) 全期を通しての対応のヒント
(3) 段階別の対応のヒント

3　不登校の子ども・保護者との基本的なかかわり方 ---------- 6
(1) 本人とのかかわり方のポイント
(2) 保護者とのかかわり方のポイント

4　不登校の子どもへの家庭訪問について ---------- 7
(1) 家庭訪問の仕方
(2) 家庭訪問を受け入れてもらえない場合

5　再登校に向けて ---------- 8
(1) 再登校準備
(2) 再登校段階

6　自立に向けて ---------- 9

＜参考資料＞

1　不登校の解決に向けて ー観察ポイントとチェックリストー
(1) 「不登校の兆し発見」チェックリスト
(2) 「きみのことおしえて」「君のこと教えて」シート

2　不登校の未然防止に向けた小中学校の円滑な接続のために

3　不登校未然防止に向けた計画と継続的な検証改善サイクルの確立について

4　徳島県内の相談機関

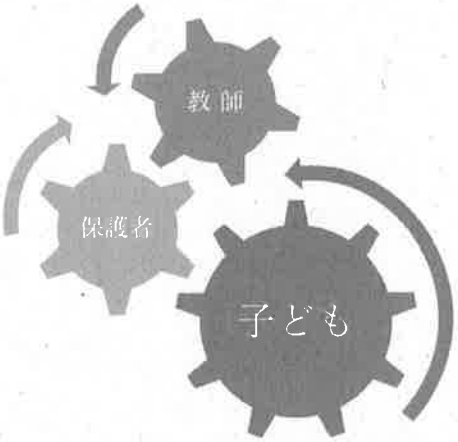
5　徳島県立総合教育センターの相談事業・派遣事業

＜参考文献＞

1　不登校の子どもと出会ったら

(1)　「かかわりつつ待つ」姿勢で

教師や保護者からの問いとして多いのが，「登校刺激をした方がいいのでしょうか」「このまま待っていていいのでしょうか」というものです。今が「待つ」時期なのか，「登校を促す」時期なのか，ある程度の判断ができれば教師も保護者も安心して子どもたちとかかわることができます。



「待つ」ことについては，「待つ」のが悪いのではなく，「かかわりつつ待つ」つまり，「(本人や保護者と）かかわりつつ（登校するのを）待つ」ことが大事なのです。本人と会えない場合は，保護者とかかわることです。保護者とかかわることで，子どもは動き出します。

養護教諭や管理職にかかわってもらうこともよい方法です。スクールカウンセラーにつなぐことも大切です。特別支援教育コーディネーターにも相談し，専門機関等につなぐことも考慮しましょう。

(2)　ケースに応じた支援をしよう

①　教育的な支援が必要なケース

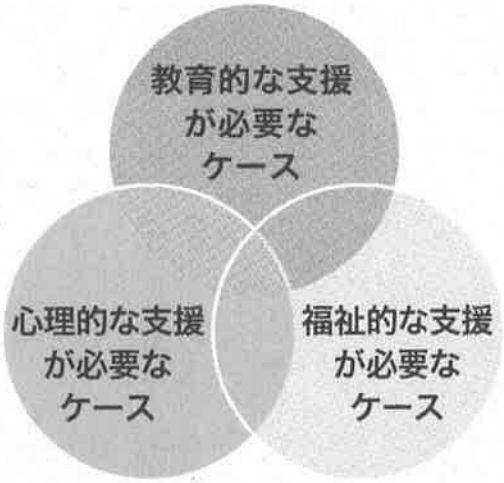
・　学習と対人関係でのつまずきや挫折経験があるケース

→　教師の専門性を生かした対応と特別支援教育巡回相談員，医療機関，相談機関につなぐ。

②　心理的な支援が必要なケース

・　子ども自身が敏感すぎる心や強い不安を持っていて，集団生活になじみにくくなるケースと，思春期の特性により，自己への不安や反発から急に葛藤状態になるケース

→　スクールカウンセラー，医療機関，相談機関につなぐ。



③　福祉的な支援が必要なケース

・　家族の問題や経済状態などにより家庭生活そのものが成り立たないために不登校になるケース

→　スクールカウンセラー，スクールプロフェッサー（社会福祉士等），福祉事務所，こども女性相談センター（児童相談所），相談機関につなぐ。

④　上の３つの複合タイプ

最もとりかかりやすいところから，対応する。

(3) 学級担任としてのかかわり方

学校において，子どもたちは学級で多くの時間を過ごすことから，学級担任の果たす役割は大きなものがあります。

次に学級担任としてのかかわり方について述べていきます。

① 子どもや家族のことについて，情報収集しよう ［参照：(4) 情報収集の視点］

・うまくいかなかった対応はやめて，うまくいった対応を繰り返す。

② 学級経営をしっかりしよう

・ いつ登校しても居場所のある学級づくり。
・ 安心と安全がキーワード。
・ 人間関係づくりやソーシャルスキルトレーニングを計画的に複数回実施する。

③ 学年・学校全体でかかわろう

・ １日５分，共通理解を持つための時間（ミニ職員会議）をとる。
・ 学級担任一人が抱えこんでしまうことのないように，学年主任や管理職に相談する。

④ 特別な支援が必要かもしれないという視点を持とう

・ 特別支援教育コーディネーターとも連携する。
・ 特別支援教育のチェックリストも活用する。 **［参照：徳島県立総合教育センターホームページ（特別支援・相談課 → 特別支援関係資料 → 通常の学級に在籍している特別な支援を必要とする子どものチェックシート）］**

(4) 情報収集の視点

前学年の学級担任や養護教諭，生徒指導担当や部活動顧問等からも情報を集めるとともに，可能ならば，保護者や家族，本人からも次のような観点を参考にして，情報収集しましょう。

触れてはいけないこと，触れてもいいことをしっかりと把握して，会いましょう。

① 本人のこと

・ これまでの状況（学校に行きにくくなってから現在に至る状況等）
・ これまでの学校の対応（主としてかかわってきた人，体制，スクールカウンセラーや専門家等）
・ これまでの家庭での様子（家での過ごし方，食欲，睡眠，体調等）
・ これまでの学校生活での様子（学級，保健室，部活動等）
・ 本人のこと（好き嫌い，趣味，得意なこと，学習，困っていること，疾病等）
・ 友人関係（学級，部活動，近所等）
・ いじめの存在の有無

② 家庭の状況

・ 家族のこと（家族関係，家族の病気・死亡，転居，転校，単身赴任，離婚，多忙な親等）
・ 経済状態
・ 虐待の有無